

# 自 己 評 価 書

(平成22年度)

平成23年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
	1. 教育課程・指導	3
	2. 保健管理	5
	3. 安全管理	7
	4. 特別支援教育	9
	5. 組織運営	10
	6. 研修（資質向上の取組）	13
	7. 学校評価	16
	8. 情報提供	19
	9. 保護者・地域住民との連携	21
	10. 子育て支援	23
	11. 教育環境整備	25
	12. 教育実習	29
	13. センターの役割	33
III	自己評価別添根拠資料一覧	34

# I 学校の現況及び目的

## 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成22年5月1日)  
幼児数144人 教員数8人(正規教員)

## 2 目的

### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

### (2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。

③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。

④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

### (3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

### (4) 平成22年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携を強化し、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、教育目標の具現化を図る。

①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化に取り組む。

②教育の質的向上を図る「遊誘財」研究を推進する。

③専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む

④地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。

⑤園務の能率化や教職員の勤務の適正化を図る。

### (5) 評価項目

#### ①教育課程・指導

・年間の指導計画や週案などの作成の状況

#### ②保健管理

・保健計画の改定の状況

#### ③安全管理

・安全点検や教職員の安全対応能力の向上を図るための取り組み状況

#### ④特別支援教育

・家庭との連携状況

#### ⑤組織運営

・園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制の整備の状況

#### ⑥研修(資質向上の取組)

・園内研修や園外研修の実施及び参加の状況

#### ⑦教育目標・学校評価

・学校関係者評価実施及び運用の状況

⑧情報提供

- ・ 情報提供の活用の状況

⑨保護者，地域住民との連携

- ・ 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

⑩子育て支援

- ・ 保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動の実施状況

⑪教育環境整備

- ・ 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑫教育実習

- ・ 専門性や実践力を養う教育実習の実施の状況

⑬センター的役割

- ・ 幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況

## II 評価項目ごとの自己評価

### 評価項目1 教育課程・指導

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点1 年間の指導計画や週案などの作成はできているか

###### 【観点到に係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、さらに保育の質の向上を図るため、本園の教育課程である「生活プラン」に基づく具体的な指導のねらいや内容、環境の構成、教師の援助など、指導の内容及び方法を具体的に明らかにしつつ、植物環境プランとおやつへの中心とした食育指導も含めた「生活プラン」の見直しを今年度も継続した。また、保育の質をさらに高める手立てとして、保育実践の記録と事例収集、並びに本園独自の「保育の計画と記録」と徳島県教育会発行の「教育記録 幼稚園」及び教員個々が作成・利用している保育記録やパソコンによるデータ記録を併用し、保育実践にかかる記録や週案等を作成する手立てとし、今後を見通しやすいように工夫しながら保育計画案の修正と作成を進めた。

###### 【分析結果と根拠理由】

本園「生活プラン」(2008.11.20発行)及び2010年11月20日発行の「研究紀要第44集」並びに遊誘財リーフレットNo.1等の刊行物は、県内外を問わず、幼児教育関係者や研究者から引き続き多大な評価を得ている状況である。

また、本園の保育実践や教師の指導力について、幼児教育研究会(来園者422名)や本園オープンスクールの参観者(181名)に尋ねたアンケート集計結果によると、本園の保育について「とてもよい」との回答が、教育関係者96.8%、保護者98.4%から寄せられ、教師の姿勢や指導力に関しては、「先生の細やかな心づかいが感じられて子どもたちが安心してのびのび生活している」「適度・適切なサポート・アドバイスがあり見守ってくださっている。子どもたちは安心して生活できる」「子どもの成長過程をよく見ている」「子どもがやりたいことにズレがある時、スッと先生がやってきて必要な援助をし、子どもの活動に返している」等の自由記述が見られた。、本園の環境整備について「とてもよい」と回答は、教育関係者100%、保護者96.8%から寄せられた。

資料1-① 平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果(一部抜粋)

	平成22年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果	
実施日	平成22年11月6日(土)	
対象	オープンスクール参観者 181名 (アンケート回答者124名)	
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

**アンケート集計結果**

○保育について	
・とてもよい	122名 (98.4%)
・あまりよくない	0名 (0%)
・どちらでもない	2名 (1.6%)
・記入なし	0名 (0%)

○環境整備について	
・よく整っている	120名 (96.8%)
・もっと整えて欲しい	1名 (0.8%)
・どちらでもない	1名 (0.8%)
・記入なし	2名 (1.6%)

### 保育について自由記述の概要

#### ★子どもが生き生き・のびのび・楽しい

- みんな自由に楽しくしている。
- 楽しそうに笑顔いっぱいの子が見られる。
- 全員が生き生きと目を輝かせて活動している。
- 子どもどうしがとても仲がよい。
- のびのびと自由に考える環境の中できまりを守ることが伺えた。

#### ★考え・学び・工夫・行動力・知識の獲得

- 子どもたちが積極的に遊び、思い通りにいかない時も再度挑戦したり、対策を考えて行動したりしていた。
- 自分のやりたいことを見つけ、考えながら行動している。
- 自分たちがしたいことをし、遊び込みながら結果に行き着くまでの過程で学び、先生や友達と楽しみながらやっている。

#### ★創造性・想像力・集中力

- 創意工夫できる環境がある。
- 子どもの創造力をかき立てるものがいろいろある。
- それぞれ自分の思い・感性で身体を動かし、遊びを工夫しながら展開していくところに大変興味深く見入った。

#### ★自由性・多様性

- 一人ひとりの子どもたちのしっかり自律できる心・体づくりが行われているように感じる。
- 子どもの考えを一番に優先し、子どもたちで話し合いながら活動している。

別添資料	1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成22年度附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料	1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	1-④	附属幼稚園生活プラン (2008.11.20発行)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

幼児の発達に即した保育計画及び週案の作成を「生活プラン」の見直しを進めながら行っている。

### 【改善を要する点】

保育記録・事例のデータベース化をさらに進め、次年度から取り組む幼小接続の教育課程開発研究に生かす。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

#### 自己評価の基準

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

## 評価項目 2 保健管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 2 保健計画が改定されているか

#### 【観点到係る状況】

##### (1) 月別の指導計画の見直しの実施

今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。夏のプール活動後、プールサイドで着替えをしていたが、昨今の状況を鑑み、保育室で着替えをするよう変更した。また、夏季は酷暑が続き、保育室に冷房がないため、熱中症になりかけた幼児もあった。そのため、園内での夏の過ごし方については、氷を用いて冷やしたり、木陰で時々休むように声をかけたり、水分を補給するなど、格別の注意を払うよう努力した。また、昨年度は新型インフルエンザが大流行したので、それに備えて引き続き予防や対応に取り組んだが、今年度は今のところそれほどの流行はみられない。

##### (2) 保護者への保健指導に関する協力

絵本の貸し出し時間を利用し、各組ごとに保護者に対して講話をしてむし歯予防に対する知識を高めたり、早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣の育成についても養護教諭が計画的に計画して指導をした。伝染性の病気が流行している時などはその予防について情報を提供し、理解を求めた。また、毎月「ほけんだより」を配付して、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

**【分析結果と根拠理由】**

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。ただ、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考え。

資料 2-① 保健室 1 1 月の指導計画（一部抜粋）

養護教諭 佐藤恵

ね	○風邪・インフルエンザの予防をしようとする。 ○戸外で十分に身体を動かして遊ぶ。
ら	○気温や自分の身体の調子に合わせて衣服の調節をしようとする。 ○自分の身体を丈夫にするために、好き嫌いをなく食べようとする。
い	○歯の役割や大切さを知り、口腔の衛生を保とうとする。
指導内容	指導の要点と環境構成
○風邪・インフルエンザ等の感染症の予防をしようとする。 ・家庭で朝、検温をしてくる。 ・うがい・手洗い・アルコール消毒をする。 ・衣服の調節をしようとする。	○感染症の予防について理解し、実践できるようにする。 ・検温をすることによって自分の体温に関心をもたせ、その意義を知らせる。 ・空気中には目に見えないかぜやインフルエンザの菌がたくさんいるので、うがいや手洗いやアルコール消毒が予防に効果的であることを知らせ、上手にできるように援助する。また、換気の大切さやせきエチケットについても知らせ、実行できるようにする。 ・遊んでいて暑くなったとき、1枚上着を脱ぐことで快適に過ごせることや、逆に寒い時は、1枚上着を着せ温かくなることを実感させる。
○戸外で十分に身体を動かして遊ぶ。 ○丈夫で元気な身体を作るために好き嫌いなく食べようとする。 ・良く噛んで食べることの大切さについて知らせる。	○戸外で十分に身体を動かして遊ぶことができるように配慮する。 ・ルールを守って安全に遊ぶことの大切さについて伝える。 ○食べ物の中にある身体を丈夫にする働き、強い力を作る働き、病気から守ってくれたり、いいうんちが出る手伝いをする働き等の栄養素をバランス良く取り入れると元気な身体になることや、バランスが崩れると身体の調子が悪くなること、また、自分の身体の調子を便の状態によって知ることが出来る等を絵本や保健教材を通して伝え、食事することが自分の身体と深く関係があるということを意識させる。 ・保護者に対しても、バランス良く食べることの大切さ、朝食をしっかり食べることで体温を上げ、身体の動きを良くしたり、脳の働きが良くなりしっかり考えることができるなど、食べることが直接日々の生活に影響することを伝える。また、幼児期に出来るだけ多くの味を体験しておくことが、味覚の発達や生涯を通して食生活が豊かになることを伝える。
○歯の役割や大切さを知り、虫歯予防のため、おやつや弁当を食べた後は歯磨きやうがいをする。	○歯みがき指導を行い、幼児や保護者に歯磨きの大切さを知ってもらおう。また、おやつや弁当の後に歯ブラシの持ち方を養護教諭が示したり、丁度良い力の加減で幼児の歯を磨いてあげたりして、自分で歯が磨けるように援助する。歯を磨くことにより、口の中が気持ちよくなることを実感させる。乳歯と永久歯の交換時期にある幼児には大人の歯になることの喜びを伝える。また、一生使っていく歯であることを伝えて、生涯大切にしていこうとする意欲を育てる。
○保健室で休養したり、絵を描いたりして気分を落ち着ける。	○誰もが親しみをもって来室できるように、自由に絵を描いたり、本を読んだりする環境を整えておく。友達と喧嘩したり、遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対しては、幼児の話をよく聞き、その子の思いをしっかりと受け止めながら、自分のやりたいことに向かっているように援助する。何となく来室した幼児に対しては、無理にその原因を追及しようとせず、居心地の良い場所となるように、温かく見守り、幼児の状態を見ながら対応し、気分を立て直して遊びに戻っていくように支援をする。
○就学時健康診断やインフルエンザ等の感染症の予防について保護者に伝える。	○年長児は、指定された小学校で就学時健康診断を受診しなければならないことを保護者に伝え、子ども達の健康状態をチェックするとともに基本的な生活習慣を見直すいい機会とする。また、かぜやインフルエンザの流行時についての注意を呼びかけ、感染予防や体調管理について十分に気をつけるよう伝える。幼児の欠席状況を把握し、出席停止の措置などについては園医に指導を受け、即座の対応を行うための協力を依頼する。

別添資料 2-① ほけんだより 1 1 月号

**(2) 優れた点及び改善を要する点**



### 【優れた点】

職員会において毎月の指導計画を見直し、幼児や園の実態に応じて改定している。

### 【改善を要する点】

幼児や保護者に対する毎月の保健指導に関し、もう少し改善の必要があると思われる。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目3 安全管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点3 安全点検や教職員の安全対応能力の向上を図るための取り組み状況

#### 【観点に係る状況】

「平成22年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」（別添資料3－①）を作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が2人組で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなど、対応をしている。また、6月には全教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得、実技講習を行っている。

#### 資料3－① 防災・避難訓練の実施

##### ① 防災訓練（地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成22年5月11日（火） 10：50～11：10

##### ② 幼小合同避難訓練（不審者対応）計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成22年6月1日（火） 9：40～10：25
- ・状況設定 小学校の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定  
不審者が2年生棟東側の塀を乗り越えて小学校敷地内に侵入。

##### ③ 防災訓練（地震・火災）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な

避難の仕方を身に付ける。

- ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成22年9月1日(水) 9:15～9:35

#### ④幼小合同避難訓練(火災)計画

- ・ねらい ・実際に小学校で火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・期 日 平成22年9月29日(水) 9:45～10:25

#### ⑤幼小合同避難訓練(地震・津波)計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

- ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成23年1月11日(火) 9:45～10:00

なお、12月1日に緊急地震速報を用いた訓練を実施する予定であったが、大学の都合で中止になった。

### 【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルを作成し、年度当初に職員会で周知しているので、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 3-① 平成22年度安全管理計画-危機管理マニュアル-

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

危機管理マニュアル(安全管理計画)に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようになっている。また、毎年、全教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。

AEDを平成20年12月に設置することができ、一層安全管理体制が強化された。また、安全パッドの使用期限が近づいていたので交換を行った。

### 【改善を要する点】

特になし

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目 4 特別支援教育

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 4 家庭との連携状況

##### 【観点に係る状況】

日常的に担任やコーディネーターから保護者に対して、機会をとらえて、できるだけ密に連絡を取り合うように努めている。園内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターの指名を行い、研修を実施している。幼稚園・小学校の連携を密に行い、鳴門教育大学特別支援教育コースとも連携を図り、支援の必要な幼児には保護者の協力を得て支援ノートを作成するなどの対応を行っている。

平成22年7月26日(月)に、特別支援教育コーディネーター夏季研修会で佐藤恵養護教諭が「発達障害の子どもへの支援～幼稚園でできること～」のテーマで、本園の取り組みを発表した。小学校への就学移行がスムーズにできるよう、本学院生の協力を得て「就学支援サポートファイル」を用いて支援を行った事例や、こだわりがあり、友達とうまくかかわれない園児に対する支援の事例などについて発表した。参会者からは、園児とのかかわり方や支援の仕方がよくわかり、今後の実践の参考になったとの意見も出た。

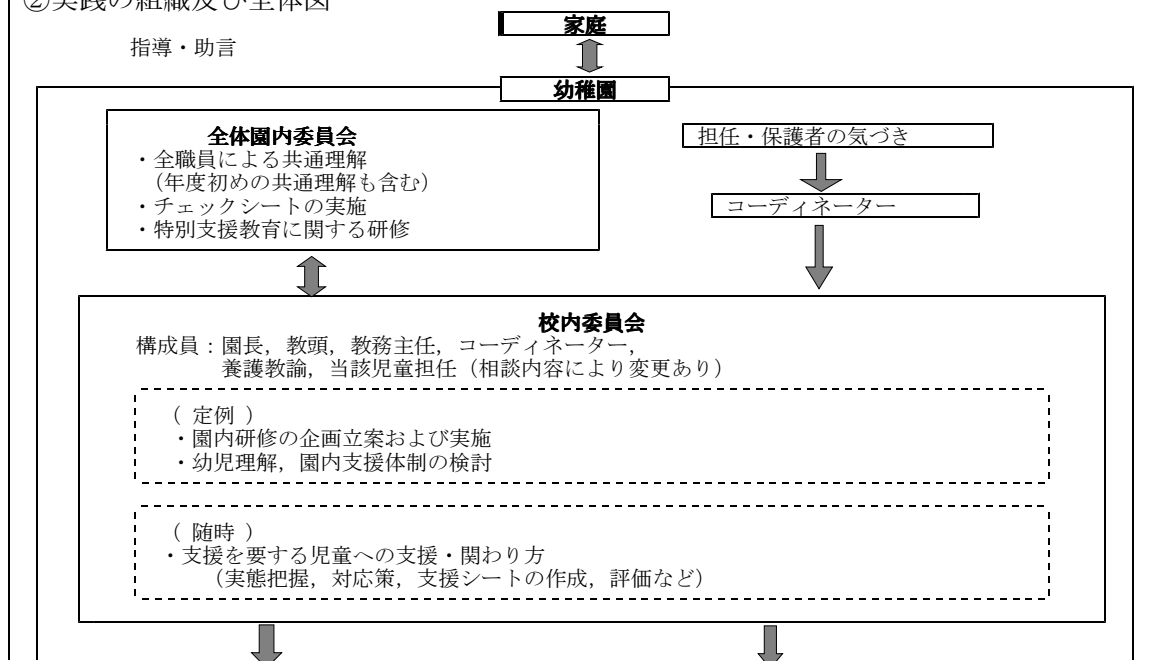
平成22年7月6日(火)に実施したペアレンツセミナーⅡでは、本学特別支援教育講座准教授の井上とも子先生の講演「子育てのヒント～特別支援教育から学んでみませんか～」をとおり保護者にも啓発した。

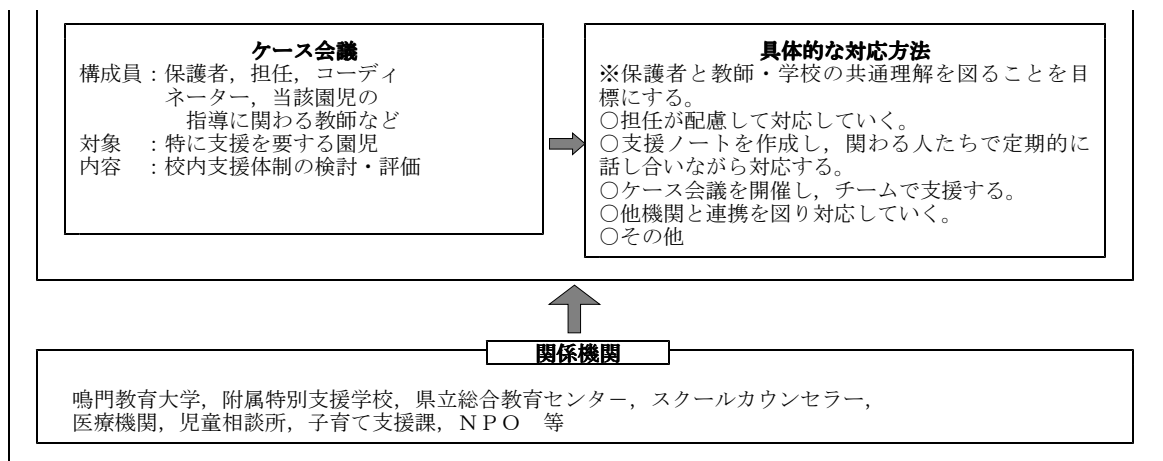
#### 資料 4-① 特別支援教育計画

##### ①実践のねらい

すべての幼児を対象に、子どもたちが持つ様々な課題を“教育的ニーズ”ととらえ、園全体で個別のニーズに応じた教育の実践を行う。

##### ②実践の組織及び全体図





### 【分析結果と根拠理由】

園内の特別支援教育の整備体制は機能し，様々な機会をとらえて，「気になる子」や特別な支援を要する園児について，職員間の話し合いや共通理解を進めている。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

個々の幼児については，常に職員間の共通理解をはかることができ，保護者と相談をしながら，配慮をしたり，支援することができた。また，鳴門教育大学や附属特別支援学校，スクールカウンセラーなどと連携し，支援することができた。

#### 【改善を要する点】

少し行動が気になる幼児について，まだ保護者との連携が十分だとはいえない状況があり，できるだけ密に連携がとれるようにしていきたい。また，園内で職員の特別支援教育研修の機会があまりとれなかったので，今後充実させていきたい。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，4段階評価中の「 B 達成されている」と判断する。

## 評価項目 5 組織運営

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 5 園務分掌が適切に機能するなど，明確な運営・責任体制が整備されているか

#### 【観点到る状況】

本園は，研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織し，3主任を責任者として配置して，それを部内教頭・園長が統括するという園務分掌を定めている。

昨年度は週26時間と週30時間の非常勤講師各1名及びフルタイムの教育支援教員1名であったが、今年度より週30時間の非常勤講師2名とフルタイムの教育支援教員が1名配置され、園務分掌の見直しを図った。

年度当初に教員の資質・能力・適性に応じて各担当を配置し、人的教育環境としての充実を考慮しながら、互いに協力して園務の能率化・省力化を図れるよう配慮した。そして、文書ファイリングシステムを整備したり、園内ネットワークによる情報の共有化を図り、園務分掌ごとにデータを統合できるよう改良・整備した。

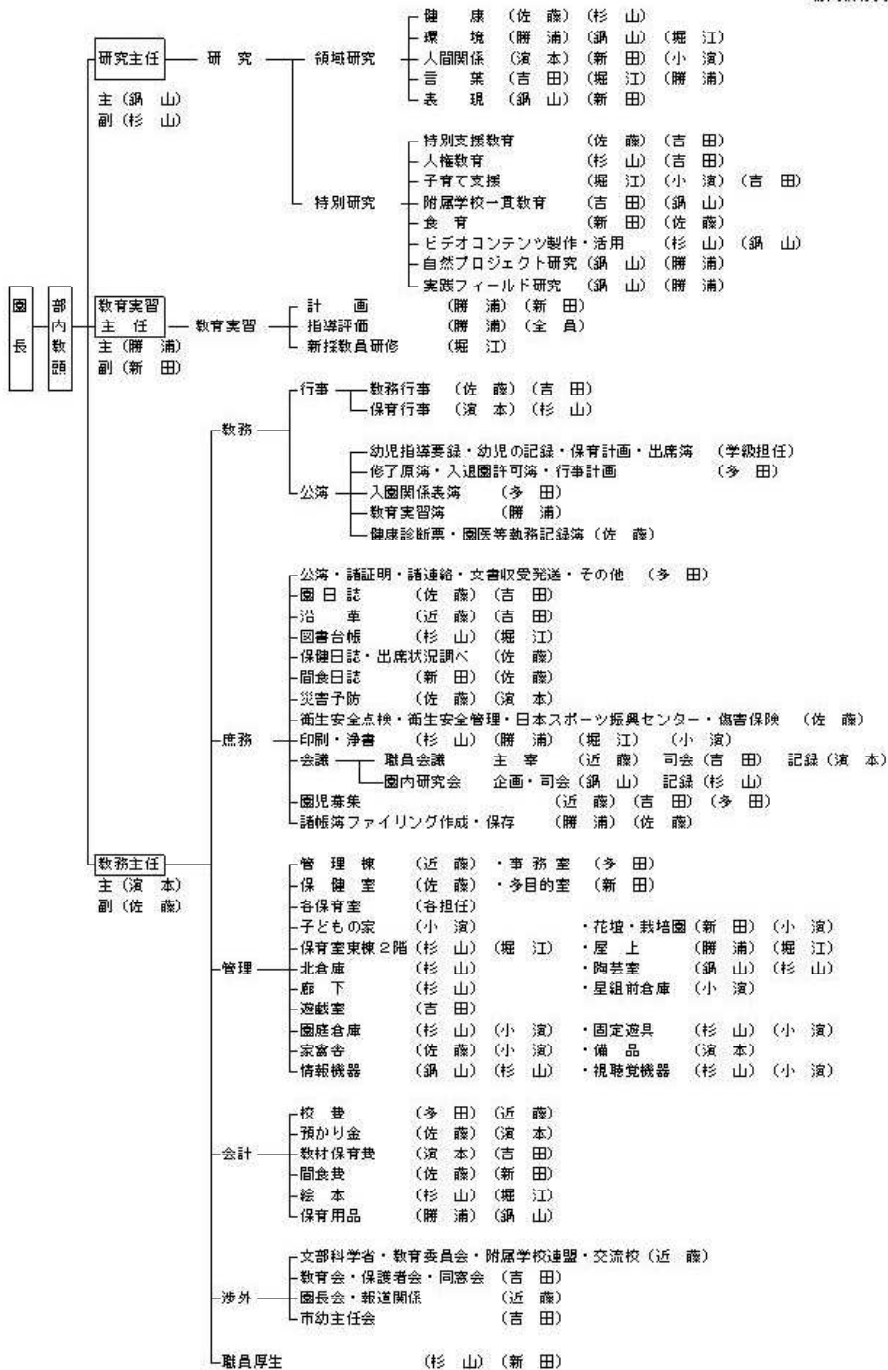
なお、園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応している。

資料5-① 平成22年度第1回職員会議題

平成22年度第1回職員会議		鳴門教育大学附属幼稚園	
と き	平成22年4月1日(木) 10:00～12:00	15:00～16:00	
と ころ	附属幼稚園多目的室		
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ		
1	協議事項		(担任者)
(1)	平成22年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2)	平成22年度 部内教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3)	鳴門教育大学附属幼稚園園則・附属学校部規則・同職員会議規程・同部会議規程・同運営委員会規程・同学校評議員規程・同学校関係者評価規程・同大学中期計画中期目標・就業規則・その他申し合わせ・学校教育法等について		
(4)	平成22年度 幼稚園要覧について	資料2	(園 長)
(5)	平成22年度 職員の勤務について	資料3	(園 長)
(6)	平成22年度 園務分掌について	資料4	(園 長)
(7)	平成22年度 年間行事計画について	資料5	(園 長)
(8)	平成22年度 年間行事計画について	資料6	(教 頭)
(9)	平成22年度 学年始休業中の計画表	資料7	(教 頭)
(10)	4月の行事予定について	資料8	(教 頭)
(11)	新学期者準備について	資料9	(教 頭)
(12)	始業式について	資料10	(佐 藤)
(13)	新入園児用品渡しについて	資料11	(錦 山)
(14)	附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(教 頭)
(15)	入園式について	資料13	(佐 藤)
(16)	芙蓉会規程について	資料14	(園 長)
(17)	園児緊急連絡網等について		(教 頭)
(18)	安井伊弉諾労働組合年間カレンダーについて	資料15	(園 長)
(19)	平成22事業年度に係る業務実績報告書及び当該実績に関わる根拠資料の作成について		(教 頭)
(20)	みどり会事業計画等について		(教 頭)
2	連絡事項		
(1)	文書管理・情報管理等について		(園 長)
(2)	経費節減について		(園 長)
(3)	四附連について	資料18	(園 長)
(4)	歓送迎会について		(園 長)
3	その他		
(1)	労働環境協議会役員改選について		(園 長)

平成22年度 園務分掌

鳴門教育大学附属幼稚園



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担し、各々が責任をもって適切にあたり、円滑な園運営がなされている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

園務分掌は、責任担当者を複数体制で細部にわたって明記し、組織の中での責任の所在や業務内容を明確にしている。また、園運営の全体計画は年度当初に示しており、必要に応じてその都度綿密に計画立案した資料を職員会議に提出して協議・決定し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

### 【改善を要する点】

教育・研究・教育実習・子育て支援等、園の業務内容は、ますます肥大化しており、定められた勤務時間の範囲内での遂行は非常に難しい。職員の労働時間の厳守・縮減、業務内容のスリム化、ノー残業デーの完全実施、休日確保等に課題が残る。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている」と判断する。

## 評価項目6 研修（資質向上の取組）

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点6 園内研修や園外研修の実施及び参加ができているか

##### 【観点到る状況】

##### ①園内研究会・合同研究会

研究主任の計画のもと、週1回程度の園内研究会の内、月1～2回程度は合同研究会として他所属（大学・公立幼稚園・小学校等）の教員にも参加を呼びかけ、ウェブページでも広報して次表のように開催した。特に大学教員の参加が多くあり、共同研究を推進している。

また、本学幼年発達支援コース田村隆宏教授を中心に日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受け、本園の研究を広く情報発信するために発刊した「遊誘財リーフレットNo.1」は高い評価を受けている。

「保育の質的充実を目指してー遊誘財データベースの構築ー」を研究主題に掲げ、11月の公開研究会に向け、保育の質的充実に資する遊誘財データベースの構築に必要な記録の収集や分析を行った。具体的な方法としては、各自が記録を持ち寄り事例研究・保育カンファレンスを行ったり、各担任の研究保育及び保育協議を行ったりしている。今年度は事例の対象を植物に関するものとし、収集・分析を行った。

資料 6 - ① 平成22年度合同研究会開催日

月	日	協議の内容
4	19日 (月) 26日 (月)	①本年度の研究と幼児教育研究会について打合せ ②事例研究会
5	10日 (月) 27日 (木)	③事例研究会 ④研究保育と協議 (3年保育3歳児星組 担任 吉田教諭)
6	3日 (木) 24日 (木) 28日 (月)	⑤研究保育と協議 (2年保育5歳児山組 担任 杉山教諭) ⑥研究保育と協議 (3年保育5歳児川組 担任 鍋山教諭) ⑦研究保育と協議 (3年保育4歳児空組 担任 濱本教諭)
7	22日 (木)	⑧事例研究会
8	2日 (月) 9日 (月) 18日 (水) 26日 (木)	⑨事例研究会・研究紀要原稿の検討 ⑩事例研究会・研究紀要原稿の検討 ⑪事例研究会・研究紀要原稿の検討 ⑫事例研究会・研究紀要原稿の検討
9	2日 (木) 13日 (月) 28日 (火)	⑬事例研究会 ⑭研究保育と協議 (2年保育4歳児月組 担任 勝浦教諭) ⑮事例研究会 (教育実習生研究保育・保育協議)
10	14日 (木) 25日 (月)	⑯事例研究会・研究紀要原稿の検討 ⑰事例研究会・研究紀要原稿の検討
11	1日 (月) 18日 (木) 20日 (土)	⑱事例研究会・研究紀要原稿の検討 ⑲研究紀要原稿の最終検討 研究発表「幼児教育研究会」
1	6日 (木) 13日 (木) 27日 (木)	⑳事例研究会 ㉑事例研究会 ㉒事例研究会

今年度11月20日(土)に実施した幼児教育研究会には422名の参会者を迎え、「保育の質的充実を目指してー遊誘財データベースの構築ー」のテーマで、研究主任と本学の木下光二准教授が発表を行った。また、前記の事例研究・保育カンファレンス及び各担任の研究保育及び保育協議の他に、平成23年2月11日(金)には附属小学校研究発表会に参加し、幼小の連携・接続を意識しつつ授業参観及び授業記録を行い、3月に行われる附小合同研究会(反省会)にも全教員参加の予定である。

②その他園内研修

保育技術のスキル向上のため、職員や一部保護者を講師として研修を計画し、次のような研修を実施した。



- ・ピアノレッスン
- ・バトミントン研修
- ・リズム表現研修
- ・阿波踊り研修 等

### ③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修 幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名  
幼稚園教育理解推進事業中央協議会 1名
- ・全附連・四附連・近畿四国附連等の研究会 等
- ・日本保育学会
- ・日本生活科・総合的学習教育学会
- ・日本教育大学協会研究集会
- ・鳴門教育大学主催のワークショップ・シンポジウム・研究会 等
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会，国・県幼稚園教育課程研究協議会，養護教諭研修会，徳島県小学校健康教育大会，学校保健安全研究協議会，幼稚園中堅教員研修，特別支援教育コーディネーター研修会，幼稚園等新規採用教諭研修，徳島県幼小連携推進フォーラム，子育て活動支援事業協議会 等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会・研究会 等

上記のような数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで発表や話題提供なども行っている。今年度に係る発表等は次のとおりである。

- ・第63回日本保育学会愛媛大会では，「保育における遊びと遊戯療法における遊びについて」のテーマで勝浦千晶教諭が幼稚園における“遊び”について話題提供をした。
- ・第59回全国幼児教育研究会福岡大会で，勝浦千晶教諭が「自然の営みと幼児の生活ーアオムシの成長に寄り添っていく過程の中でー」で提案発表を行った。
- ・日本教育大学協会四国地区研究集会では，鍋山由美教諭が「保育の質的充実を目指してー遊誘財データベースの構築ー」のテーマで研究発表を行った。

### 【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で，今年度の研究テーマに取り組んできた。昨年度，遊誘財データベースのシステム構築に成功し，一部の事例がウェブページ上で閲覧可能になった。今年度はさらに，データの蓄積と保育記録の分析等を進めてきた。その中で，植物と子どもが関わる中で起こる学びについての考察が深まった。植物が子どもを惹きつけ様々な学びを生み出す要素が抽出・整理され，遊誘財研究が保育の質を向上させるという確信を得ることができた。

日々の保育記録や幼児の記録，エピソード記録等を元に保育カンファレンスを実施し協議を重ねたり，今年度も研究保育を実施したことは，教員の指導力向上に直結し，保育の質の向上に寄与したと思われる。

また，園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり，年間で一人平均5回を越えており，

教員の資質向上のための園内外での研修は充実している。

別添資料 6-①	研究紀要第44集「保育の質的充実を目指してー遊誘財データベースの構築ー」(2010.11.20発行)
別添資料 6-②	遊誘財リーフレットNo.1 (2010.11.20発行)
別添資料 6-③	平成22年度出張一覧

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

合同研究会では、特に本園の実態や教育理念に理解のある方々の多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し、実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。そこで出された事項や植物が子どもに誘いかける様々なもの(感じとること、働きかけること、見つけ出すこと)が協議され、保育の質に迫るとともに、遊誘財データベースのデータ集積を進めた。

大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また、研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。

担任外教員(非常勤講師)が配置されていることや、派遣旅費の一部は保護者からの奨学寄付金から支出しているため、数多くの研修会への派遣が可能となっている。

### 【改善を要する点】

これまで本学幼年発達支援コースの先生方を中心に研究会を重ねてきたが、教員養成特別コースの先生方の参加も得て、より多方面から幼児の発達の専門的理解が進んだ。大学附属の利点を生かし、豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を本園の教員の資質向上を図る研修に活用できるよう、多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目7 学校評価

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点7 学校関係者評価の実施システムが運用されているか

## 【観点に係る状況】

学校関係者評価は、昨年度作成した実施システムを基に継続的に実践している。評価項目は検討・見直しの上、一部改訂して取り組んでいる。

実施計画は次のとおりで、今年度も昨年度に引き続き幼児教育研究会参加者によるアンケート実施を加え、教育・研究両面からの評価も反映できるようにした。

- ①幼稚園の現況・及び目的や平成22年度の重点目標や計画の設定
- ②評価項目の設定
- ③学校関係者評価委員委嘱（昨年度より引き続き継続）
- ④第1回学校関係者評価委員会開催（平成22年6月11日）
- ⑤重点目標を考慮した教育活動の実施
- ⑥学校関係者評価委員に幼稚園教育活動の公開（運動会・オープンスクール・公開研究会・表現会等）及び意見交換
- ⑦アンケートを実施し、結果を公表（保護者対象・参観者来園者対象・オープンスクール参加者対象・幼児教育研究会参加者対象）
- ⑧自己評価書を作成し、第2回学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価を実施  
(平成23年2月予定)
- ⑨自己評価書及び学校関係者評価報告書を設置者に報告（平成23年3月予定）
- ⑩自己評価書を公表（平成23年4月予定）

資料 7-① 平成22年度第1回附属幼稚園学校関係者評価委員会 議事要録（一部抜粋）

### 第1回附属幼稚園学校関係者評価委員会 議事要録

日 時 平成22年6月11日（金） 9時30分～11時15分

場 所 附属幼稚園 園長室

評 価 員 赤澤ミユキ委員，福森知治委員，大宮俊恵委員，木下光二委員，稲木紀彦委員，  
小山憲子委員の各評価員

幼 稚 園 側 近藤慶子園長，吉田和子部内教頭，西條附属学校チームリーダー，  
多田美樹子附属学校チームチーフ

議事に先立ち、近藤園長から、開会に当たっての挨拶があった。

続いて、委員の互選により、田村評価員を委員長に選出した。

#### 議 事

#### (1) 附属幼稚園の運営について

#### (2) 平成22年度自己評価に係る目標及び評価項目について

近藤園長から幼稚園の教育目標及び平成22年度の重点目標は昨年度と同じであり、自己評価項目は文部科学省策定の「幼稚園におけるガイドライン」に沿って昨年度と少し変更して作成していること、及び本園は「教育実習」の項目を設け13項目とし、これに基づき本園が自己評価書を作成した後評価を依頼する旨説明があった。また、参考として昨年度の自己評価書は鳴門教育大学ウェブページの附属学校のところで公表していること、現在ウェブが工事中であるため、新システムになってから評価報告書も公表する予定であるとの説明があった。

#### (3) 学校評価に係る実施スケジュールについて

#### (4) 意見・情報交換について

【○印は評価員→印は幼稚園側の発言】

○昨年度の評価報告書で教員の不足が指摘されているが、それに対する大学側からの回答は何かあったのか。

→特にはない。学長・理事と附属4校園との懇談会においても、学長から毎年1%運営費交付金を削減しなければならず、非常に厳しい現状である旨説明を受けた。

○これだけの質を保つためには、教員の負担が大きいこと、常勤の教員だけでは手が足りない状態であることを大学側に分かってもらう必要があるのではないか。保育の評価は全国的にも高い評価を得ている。このようなプラス面をアピールしてもよいのではないか。

→法人化とともに教務助手の定員を削除され、その分教員の負担が増えている。保護者にも一緒に保育参加をしていただいているが、保護者の手があるからよいわけではなく、その保護者に対する研修等のために教員の負担が増えることにもなっている。大学にもいろいろな事情があると思うが、引き続き要望していく。

資料7-② 平成22年度参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果  
※実施日：平成22年4月～23年2月 ※対象者：一般・教育関係者等来園者 80名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	146 94.20%	9 5.80%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	155 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	136 87.74%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	10 6.45%	155 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	103 66.46%	25 16.13%	0 0.00%	0 0.00%	27 17.41%	155 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	124 80.00%	17 10.97%	0 0.00%	0 0.00%	14 9.03%	155 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	125 80.65%	14 9.03%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	123 79.36%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	124 80.00%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	15 9.68%	155 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	98 63.23%	26 16.77%	2 1.29%	0 0.00%	29 18.71%	155 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	128 82.58%	16 10.32%	2 1.29%	0 0.00%	9 5.81%	155 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	66 42.58%	30 19.36%	0 0.00%	0 0.00%	59 38.06%	155 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気ができていましたか。	115 74.19%	15 9.68%	0 0.00%	0 0.00%	25 16.13%	155 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	143 92.26%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	3 1.93%	155 100.00%

【A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまり思わない D:そう思わない 無:無回答】

資料7-③ 平成22年度幼児教育研究会参加者アンケート集計結果（一部抜粋）

平成22年度 附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果

実施日	平成22年11月20日(土)		
対象	幼児教育研究会参加者(提出者数) 422名(94名)		
都道府県	・県内	67名(71.3%)	
	・県外	27名(28.7%)	
所属	・幼稚園	38名(40.4%)	
	・保育所	18名(19.1%)	
	・大学生	28名(29.8%)	
	・大学院生	2名(2.1%)	
	・大学、大学院教員	4名(4.3%)	
	・行政	1名(1.1%)	
	・一般	1名(1.1%)	
	・その他	1名(1.1%)	
内容	1 公開保育について	3段階評価及び自由記述	
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述	
	3 研究(テーマ・研究紀要・研究発表・講演・運営等)	～感想・意見等の自由記述～	

アンケート集計結果	
○保育について	
・とてもよい	91名(96.8%)
・あまりよくない	0名(0.0%)
・どちらでもない	3名(3.2%)
○環境整備について	
・とてもよい	94名(100.0%)
・あまりよくない	0名(0.0%)
・どちらでもない	0名(0.0%)

### 【分析結果と根拠理由】

昨年度作成・実施したシステムのもと、今年度着実に、計画的・積極的に取り組んできた。21年度自己評価書は、大学及び附属幼稚園のウェブページに一般公開しておいたところ、学校評価で悩んでいる幼稚園教育関係者からの反響が多くあった。

別添資料 1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-②	平成22年度幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料 1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート集計結果

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

昨年度設定した学校関係者評価システムに沿って、積極的・計画的に着実に学校評価を実施してきている。今年度も昨年度同様、幼児教育研究会でのアンケート実施を行い、多方面から評価を得ようと継続を試みた。

### 【改善を要する点】

目標達成に必要な評価項目は概ね掲げられ実施している。昨年度に比較すると少し軽減したものの今年度も評価書作成は過重負担となった。今後さらに評価項目の焦点化を図りたい。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目8 情報提供

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点8 情報提供の活用はされているか

### 【観点到係る状況】

本園の一般への情報提供は、ウェブページでの提供に統一している。ウェブページは、トップ・本園の紹介・沿革・研究・刊行物・園児募集関連・マップ・メールの内容で構成している。

園紹介では、日常の保育場面や行事の様子などを写真で紹介し、生き生きとした教育活動の内容をわかりやすく伝えるよう工夫をしている。

研究では、平成22年度幼児教育研究会の保育場面や研究発表の場面を写真で紹介し、研究内容や教育活動をわかりやすく紹介している。

資料8-① 本園ウェブページ (一部抜粋)



## 【分析結果と根拠理由】

ウェブページで、本園の教育活動を紹介する目的と合わせて、幼児教育の不易なるものや時代性を反映した今日的課題解決の方策などについての考えや実践を広く発信し、奉仕園として社会貢献している。

特に、園児募集・入園希望者への園参観受付・教育講演会等の案内は、多くの入園希望者への貴重な情報提供となっていることが、ネット上での本園の話題や電話での問い合わせ等の反響から伺える。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

内容・構成共に視覚情報に富み、見やすいとの評価を得ている。また、随時新しい情報や教育活動を載せるなどのニュース性も加わり、常に注意を向けられるものとなっている。

### 【改善を要する点】

常に新しい情報を提供するウェブページ更新作業等は、少人数の教員で組織している幼稚園では、時間的にも技術的にも職員の過重負担増となる。

今年度も、引き続き信頼のできる保護者OBのボランティアに更新作業を依頼しているが、情報管理の強化を図るため、園長の管理下におく専任のスタッフ配置が望ましい。



### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目9 保護者・地域住民との連携

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点9 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果はどうなっているか

##### 【観点到る状況】

資料9-① オープンスクールでの保護者・参観者を対象とするアンケート集計結果(一部抜粋)

オープンスクールアンケート集計結果			
※実施日	平成22年11月6日(土)		
※回答者	オープンスクール参観者	181名(アンケート回答者124名)	
※アンケート集計結果			
○保育について			
・とてもよい	122名(98.4%)	・あまりよくない	0名(0%)
・どちらでもない	2名(1.6%)	・記入なし	0名(0%)
○環境整備について			
・よく整っている	120名(96.8%)	・もっと整えて欲しい	1名(0.8%)
・どちらでもない	1名(0.8%)	・記入なし	2名(1.6%)

資料9-② 平成22年度参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果

※実施日：平成22年4月～23年2月 ※対象者：一般・教育関係者等来園者80名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	76 95.00%	4 5.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	80 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	69 86.25%	7 8.75%	1 1.25%	0 0.00%	3 3.75%	80 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	62 77.50%	8 10.00%	0 0.00%	0 0.00%	10 12.50%	80 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	77 96.25%	2 2.50%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.25%	80 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	70 87.50%	5 6.25%	0 0.00%	0 0.00%	5 6.25%	80 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	72 90.00%	4 5.00%	0 0.00%	0 0.00%	4 5.00%	80 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	71 88.75%	7 8.75%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.50%	80 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	46 57.50%	19 23.75%	0 0.00%	0 0.00%	15 18.75%	80 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	57 71.25%	21 26.25%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.50%	80 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	27 33.75%	18 22.50%	1 1.25%	0 0.00%	34 42.50%	80 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気できていましたか。	55 68.75%	6 7.50%	0 0.00%	0 0.00%	19 23.75%	80 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の応対は、適切でしたか。	76 95.00%	3 3.75%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.25%	80 100.00%

【A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

今年度も次の4種類のアンケートを実施した。

- ① オープンスクール参観者対象アンケート 181名 平成22年11月6日
- ② 参観者及び研修会参加者によるアンケート 80名 平成22年4月～平成23年2月
- ③ 幼児教育研究会参加者対象アンケート 422名 平成22年11月20日
- ④ 年長児保護者対象幼稚園評価アンケート 55名 平成23年1月15日

保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果は、上記のとおりである。保護者対象のアンケートにおける項目はいずれの項目もA評価が大半を占めている。幼稚園の参観者・研修会参加者などのアンケートではA・B評価が多いが、⑧一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育、⑩大学との連携、⑪保護者の子育てに関わる項目などが少し評価が下がっている。

### 【分析結果と根拠理由】

オープンスクールのアンケート集計結果から、保護者の本園教育に対する評価はどの項目についても90%以上という高い水準で「とてもよい」という結果を得ている。

参観者（教育関係者・一般参観者）のアンケート結果からは、全体的に高い評価が得られている。ただ、一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていたか等の項目では、一人一人の発達の状況が参観者に把握できないという問題がある。また、大学との連携や保護者の子育てについての設問も目前に参考となる資料がなく、わかりにくいということが無回答であったり、他の項目より評価が「Aと思う」にならない要因ではないかと考える。また、わからない点は無記入でよいという事前の説明も影響していると考えられる。

別添資料 1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-②	平成22年度幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料 1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート集計結果

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

幼児教育の内容や方法・環境が特に優れているという評価を得られた。保護者からのアンケート結果は、解説付きの報告書を回答者全員に配付し、年少・年中児の保護者も含む保護者会で、園長が「附属幼稚園の現状と課題ーアンケート結果をふまえてー」について講話し、理解・協力を求めている。

### 【改善を要する点】

改善を要する点について具体的提案は見当たらない。参観者が評価する時に、参考となる具体的情報を事前・事後に細かく説明したり、質疑応答に応じたりしているが、提示の工夫が必要であると考えられる。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。



## 評価項目10 子育て支援

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点10 保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動が実施できているか

##### 【観点到る状況】

本園では従来より、子育ての自立へ向けた子育て支援活動のみどり会研修活動の一環として積極的に実施している。保護者相互の交流を促進する機会や場の提供、保育参加・参観、子育て情報の提供、教育相談の実施、スクールカウンセリング、施設の開放等様々である。

ここでは、昨年度に引き続き実施した3事業を中心に評価する。

#### (1) 「夏期保育」の実施

平成22年度の夏期休暇中に園の施設を利用し、保護者が中心となって運営する「夏期保育日」を設けて9回実施した。

第一回・・・7月23日	第二回・・・7月28日	第三回・・・7月30日
第四回・・・8月2日	第五回・・・8月4日	第六回・・・8月10日
第七回・・・8月18日	第八回・・・8月20日	第九回・・・8月25日

<内容>

- 教師の指導で、夏期休業中に行っていた飼育栽培活動をベースにし、保護者による企画運営へと発展させたもので、昨年の感想や反省をもとに、今年度も実施した。
- 9時集合→飼育栽培活動・夏野菜収穫→活動(動的)→昼食(パン・野菜ジュース等の軽食)→活動(静的)→13時30分にまとめ・解散。担当の学級から5人前後の保護者が出席し運営する。

#### (2) 「あいあいサポート」

- 平日の教育課程に係る保育終了後、園の担当者2名と希望する保護者4～5名と学生ボランティア数名により、サポートを希望する幼児を引き続き16時まで保育する。
- 今年度は合計7回実施し、昨年度同様、そのうちの一回に参加できることとした。

第一回・・・平成23年1月20日	第二回・・・1月25日	第三回・・・2月1日
第四回・・・2月3日	第五回・・・2月15日	第六回・・・2月22日
第七回・・・2月24日		

<内容>

- 午前中で保育が終了する曜日を選び実施する。通常の保育終了後、参加する幼児はそのまま園に残り、昼食をとる。午後の活動については、教師全員で通常の保育の流れや内容と合い、効果的で無理のないものを考えて、計画を立てる。担当者と希望の保護者が中心となって運営するが、全ての教師も適宜サポートする。15時過ぎからおやつを食べながら休息をとり、ミーティングをして活動を振り返ったり、後日の保育につなげたりする。保護者の迎えは16時とする。
- 今年度は、手作りおもちゃ展・徳島東消防署見学・買い物とおやつ作り・恵方巻き・サッ

カー教室・抹茶体験・映画会・徳島城博物館見学などの“お楽しみ行事”を計画実施し、園児はもちろん、保護者にも好評であった。

(3)「よるトーク」開催

保護者が自主的に集い、リラックスして自由に本音で語り合える場として、“夜”“寄る”“依る”“抛る”等からネーミングした。基本的に隔月一回、本園遊戯室で実施する。

第一回・・・5月13日      第二回・・・11月26日      第三回・・・1月21日

第四回・・・2月18日

<内容>基本的には19時30分から21時とする（寒い時期は19時から始める）。本園になじみの深い講師を迎え、子育てに関するさまざまな情報や考え方、具体的な指導等を聴かせていただいたり、保護者同士で話し合ったりする。

**【分析結果と根拠理由】**

(1)「夏期保育」について

修了児保護者アンケートからも、普段のやりとりからも、昨年同様、夏期保育に関する高い評価が得られた。具体的な評価・意見としては、次のような事項が寄せられた。

<預ける側から>

- ・子どもと離れてリフレッシュした。
- ・自分のための時間ができる（趣味や仕事に使う）。
- ・園児が居ない間、他の兄弟にじっくりかかわれる。
- ・長期の休み中、家だけで居ると親子で煮詰まる感じがするが、夏期保育に参加して変化がついて良かった。
- ・他学級の幼児や兄弟など、幅広い年代の子どもとふれ合える。

<運営側から>

- ・自分たちで運営し、大変さと楽しさがあり充実した。
- ・協力して運営し、お互いに仲良くなれた。
- ・一回運営に参加して全力でかわり、やりがいがあった。回数が多いと無理かもしれない。

(2)「あいあいサポート」について

昨年度のアンケートや保護者の生の声から、好評につき回数を一回増やす予定であったが、行事の関係から昨年と同じ回数となった。今年度の実施状況について分析し、次年度の活動に生かす。

(3)「よるトーク」について

- ・参加人数は各回20名～50名程度である。
- ・仕事を持つ保護者の方には貴重な学びの場のように、毎回必ず参加している保護者の方もいる。
- ・講師は、本園近藤慶子園長や県立総合教育センター指導主事、本園みどり会会長や鳴門教育大学の専門性の高い講師であり、しかも本園の教育にも詳しいので内容が濃い。
- ・子育ての悩みが軽くなった、みんなも悩んでいることを知り、自分だけではないと安心できたという意見が多い。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・現在、本園の教育課程による保育内容と子育て支援活動との違和感のない繋がりに配慮しているが、今後さらに内容等、深めすすめていくようにする。
- ・「夏期保育」「あいあいサポート」「よるトーク」は、いずれも昨年度から実施したものであり、すべて保護者会組織“みどり会”と園との相談により起ち上げられた活動である。よって、園側からは日々の保育で読み取った幼児と保護者の実情を、保護者側からは抱える要望を、出し合い生かし合えるように工夫された子育て支援活動といえる。
- ・長期休暇中・平日・夜間と、時間的にも内容的にも多角的に保護者の方への子育て支援が考えられている。
- ・多忙な子育て中の保護者の方は、日々ストレスのたまりやすい状況にある。その支援をして、自由な時間を保障し有効に過ごしてもらうことは大切なことである。結果として子どもによい形でかえっていく。
- ・保護者の方が活動を運営し、大きな充実感を得て自信を持つことで、子育てに対してゆとりができる。また保護者同士の連携感も強くなる。

### 【改善を要する点】

運営に携わる一部の保護者だけの過重負担にならないよう、相互に配慮できるよう考える。また、開催曜日や時間帯、事前のニーズ等の調査についても再考する。

## (3) 評価項目の達成及び取り組み状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

### 評価項目 1 1 教育環境整備

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点 1 1 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備はできているか

#### ○営繕工事の計画・実施の状況

営繕工事要求書を作成し、大学施設課と連絡調整をして、計画的な営繕工事を実施を要望してきたが、22年度は他の緊急を要する工事（排水槽ポンプ取替・排水管清掃等及び散水用給水管分岐・散水装置取付工事）を優先的に着工したのと、予算不足か、要求順位7番目の屋上倉庫改修工事の1件であった。他の営繕要望工事については、次年度も継続

要望したい。

老朽化のためか、重油ボイラーが作動せず、寒い中、何度も暖がとれずに困った。業者に連絡は取るが修理の部品取り寄せに長時間を要した。

芝生の補植で美しい安全な園庭となったものの、夏季の散水には大変な労力が必要であったが、適量の散水が可能な水道管に改善され、散水時間が半減した。

資料 1 1 - ① 平成 2 2 年度附属幼稚園営繕工事要求書

		附属幼稚園 平成 2 2 年度営繕工事要求書	
順	工事内容	要 求 理 由	
1	えほんの部屋の床張り替え補強	中棟2階のえほんの部屋は、通常の読書活動はもとより、毎日、学級毎の親子絵本の貸し出しや、保護者会活動などで大勢の大人も使用し、園内でも使用頻度が高い部屋である。長年の使用により、床のきしみや揺れが年々ひどくなり、危険を感じる。安全面で、大変問題があるので、早急に重い書籍に耐えうる頑丈な床の張り替え等による補強工事を願う。	
2	北屋上立ち上がり壁の全面塗装	北屋上は、一輪車乗り場として活用しており、園児が安全に活動できるように最大限の注意をしているが、転倒する場面も少なくない。現在、屋上の立ち上がり壁には、雨漏りの原因になっていた部分のみ、防水塗装をしていただいている状態である。園児が転倒した場合に衝撃を少なくできるようなクッション機能も備えているような塗装を、残りの部分にもしていただきたい。	
3	西側フェンス設置	幼稚園西側に10階建ての分譲マンションが建設された。現有の西側フェンスは低く、マンションが高いため死角が出来ることになり、外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のために、早急に現有のものより高いフェンスの設置を願う。	
4	園庭の整備	平成15年度の営繕工事で、正門から玄関までの間は、アスファルト舗装やコンクリートブロックをインターロッキングに張り替えているところである。園庭側に溝がある構造にはなっていないが、玄関側に、雨水や泥水がたまり水はけが良くない状態であるので、補修願いたい。また、玄関から東保育棟にいたる残ったコンクリート面も、美観や園児の安全確保のために、インターロッキング等に張り替えるよう願う。	
5	渡り廊下の屋根の整備(張替)	渡り廊下上の屋根は老朽化で元の塗装はほとんど落ち、留め金具の錆びや腐食が進んでいる。雨漏り防止と、雨天時の園児の活動の場の確保のため、渡り廊下東側に伸張した屋根に早急に張替を願う。	
6	屋上に遮光テントの設置	北棟屋上は、一輪車乗りやごっこ遊びによく活用しているが、陽差しのきつい時に長時間集中して活動すると、幼児には体力面健康面の負担がかかる。最近では、幼児期からの紫外線対策についても細心の注意を払う必要があるため、北棟屋上の一部に遮光テントの設置を願う。	
◎	7	屋上倉庫の塗装及び引き戸の補修	屋上倉庫の塗料がはがれ、錆びや腐食が進んでいる。また、鉄製の引き戸が老朽化のためか、スムーズに開け閉めができにくい。園児の安全確保や防犯上のために早急に補修を願う。
8	園舎外壁の補修及び塗装	園舎外壁全体にモルタルの剥がれ落ちや、ひび割れがある。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。特に次の部分がひどい状況である。 ①中棟南西の壁 ②管理棟西ドア横の壁 ③中棟屋上の橋接合部	

○施設・設備の充実整備の状況

- ・これまで未設置であった遊戯室に天井用オート扇風機を取り付け、空調の効率化を図った。
- ・保育室は扇風機のみで冷房設備はなかったが、今年度は異常気象か夏季の暑さが非常に厳しく、室内でも熱中症の幼児が見られ、危険を感じた。幼児の健康・安全を確保するためには、今後、保育室にもエアコンの設置が必要となる。

○労働環境の充実整備の状況

- ・コピー機が新機種に更新され、認証は必要だが、多機能で省力化が図れた。

- ・幼稚園内情報ネットワーク改修工事が進み、インターネットが全ての部屋で接続可能となり、容量増加で、今後の業務の効率化に期待がもてる。
- ・科研費の助成でパソコンが増え、データベース用の映像編集作業や画像処理等の時間短縮が図れた。
- ・ワックス清掃業務等を業者委託し、労働時間短縮を図った。

### 【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備は常に意識して実施している。職員の安全に対する意識も高く、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに対して前向きである。また、点検のシステムは確立され、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を生活の中で、また、定期的な点検の中で見つけている。附属学校チームや大学施設課と、常に迅速で緊密な連絡を取り合い、特に故障や破損等については、迅速な対応がなされた。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクールでは96.8%が、幼児教育研究会では100%が、よく整っていると認めている。参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果（資料7-②）では、「施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか」では、97.5%がA・B評価としている。

資料11-① 平成22年度施設設備工事等一覧

	事 項	金 額
1	扇風機取付(遊戯室) 計4台	208,000
2	散水用給水管分岐・散水装置取付工事	—
3	排水槽ポンプ取替・排水管清掃	—
4	屋上倉庫改修工事	—
5	ボイラー修理	—
6	幼稚園内情報ネットワーク改修	—
7	電話転送工事	—
8	芝生補植	409,500
9	樹木剪定	246,535
10	床ワックスがけ清掃	129,150
11	一輪車	127,990
12	芝刈り機	54,600
13	バリカン式芝刈り機・エアレーター	36,750
14	リサイクルボックス ゴミ箱	148,260
15	掃除道具吊り	54,600
16	洗濯機・ドライヤースタンド	89,600
17	加湿器	61,530
18	職員室上置き戸棚	159,000
19	玄関水槽台	70,980
20	AED用バット取替	44,100
21	教材整理棚星組	197,000

別添資料	1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成22年度附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

安全点検によるチェック機能はよく働いており、施設・設備として不備な点はすぐに設置者との連携が取れ、附属学校チーム及び大学施設課の手厚い支援で、教育環境が常に美しく整備されている。

### 【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、築43年を経っており、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、電気設備・空調設備・配管・排水溝等の老朽化が目立つので、園舎改修を切望している。今後の全面改修に向けて大学と緊密な連携を取り、将来を見越して計画的に営繕工事や設備充実等を図る必要がある。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている」と判断する。

## 評価項目 1 2 教育実習

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 1 2 専門性や実践力を養う教育実習の実施ができているか

##### 【観点到に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

- ①ふれあい実習 9月14日  
学部1年生幼児教育専修5名・大学院学校教育研究科1名  
目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。
- ②附属学校園観察実習 6月15日、16日  
学部3年生5名  
目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。
- ③附属校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月14日  
学部3年生5名・学部4年生1名
- ④附属学校園実習 9月6日～10月1日  
学部3年生5名  
目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。計画表は<資料12-①>
- ⑤教員インターンシップ 9月6日～9月17日  
学部4年生障害児教育専修1名  
目的：これまでの実地教育の成果を生かしつつ実収に取り組み、教育実践力の向上を図る。教職を目指す者として自覚を強めるとともに新たな自己課題の明確化を図る

##### 保育実習について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週に1度、観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、週ごとに<資料12-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

## 平成22年度 鳴門教育大学附属幼稚園 実地教育計画表

(○全体、●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習要項	指 導 要 項	備 考
1	9月6日	月	教育実習開始・新入式	鑑察参加	○教育実習の意義(園長) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について・記録のとり方	監督者提出 記念写真撮影(実習生・職員)正装
	9月7日	火		保育(一部)	○本園の教育について(園長) ○本園の教育課程・指導計画/領域研究・音楽(吉田)	
	9月8日	水	(白鷺)	保育(一部)	○学級経営・学級事務(吉田) ○領域研究・人間関係(流本) ●学級経営方針について	入園希望者参観
	9月9日	木	(救急の日) 合同研究種保育(月鑑)	鑑察参加	●種保育についての研究会 ○家庭との連携について(新田)	
	9月10日	金		保育(一部)	●第2週保育内容について ○領域研究・表現(朝山) ○食育について(新田)	教育講演会
	9月11日	土				
	9月12日	日				
2	9月13日	月	ふれあい実習鑑察実習(1年)	保育(一部) 前半・後半	○観察記録(園庭周辺・遊戯室の教材教具)	第1週定例・第2週開 開提出
	9月14日	火		保育(一部) 前半・後半	○本園の人權教育について(杉山) ○領域研究・園庭/幼児遊具と幼児遊具について(園長)	附小参観日
	9月15日	水	午後保育日	保育(一部) 前半・後半	○園内安全点検について(今月の安全点検担当者) ○保健・安全指導について/領域研究・健康(佐藤)	入園希望者参観
	9月16日	木	教員インターンシップ4年生評 価保育	保育(一部)	○行事教育-運動会・園外保育について-(朝山) ●4年生評価保育案作成	
	9月17日	金	教員インターンシップ終了 午後保育日	保育(一部) 前半・後半	●4年生評価保育反省会 ●第3週保育内容について ○研究保育保育者決定・評価保育日誌等について(園長)	学校安全の日
	9月18日	土				
	9月19日	日				
3	9月20日	月	敬老の日			
	9月21日	火	誕生会	保育(一部)	○研究保育案作成	第2週定例・第3週開 開提出
	9月22日	水	午後保育日	保育(一部)	○研究保育案作成	入園希望者参観
	9月23日	木	(秋分)秋分の日			
	9月24日	金	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●第4週保育内容について ○評価保育について	
	9月25日	土				
	9月26日	日				附小体育大会
4	9月27日	月	午後保育日		●評価保育①指導案作成	第3週定例・第4週開 開提出 附小参観休日
	9月28日	火		評価保育① (一部)	●評価保育①反省会 ●評価保育②指導案作成	
	9月29日	水	午後保育日	評価保育② (一部)	●評価保育②反省会	入園希望者参観 附小参観(火災)
	9月30日	木	園外保育	保育(一部)	○教育実習反省会	
	10月1日	金	(共同基金・労働衛生週間) 創立記念日			
10月9日	土	運動会 教育実習終了				
10月10日	日	運動会于禮日				



資料12-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・幼児の行為（現象）について記録し、その意味について考察する。</li> <li>・一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。</li> </ul>
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。</li> <li>・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・教育課程と指導計画について理解を進める。</li> <li>・一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。</li> <li>・幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。</li> <li>・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。</li> </ul>
幼児とのかかわり (指導の実際)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。</li> <li>・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。</li> <li>・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。</li> <li>・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。</li> <li>・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。</li> <li>・学級事務についての考え方について説明を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。</li> <li>・保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。</li> <li>・同和教育・人権教育について講話を受</li> </ul>

		け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。	・自己課題をもって保育ができたか。 ・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。

### 【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと、教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。実習生は、教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

教育実習とは別に、幼年発達支援コースとの自然プロジェクトや「夏期保育」や「あいあいサポート」のボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 12-⑤ 平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

#### 教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください

「子ども達と一緒に走り回ったり、熱心に子どもの話を聞いて下さったりして、短い時間ながらもとても良い思い出になっている」「実習生の方々が” 学びたい”” 触れ合いたい” と自分自身を開いている方ほど子ども達との関係がよりよく学びがあったのでは、と思いました」「初めて実習に来た方、何回か来られている方で子ども達との接し方がいろいろとあり、子ども自身も人とのかかわり方を学んでいたと思います」「4週間という短い期間に、子ども一人一人の性格をしっかりと見つめて下さりその子どもに合ったかかわり方をしようとして下さりありがたく思っています。保護者に対してもとても誠実に対応して下さいます」などの記述があった。

別添資料 1-③ 平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点・改善を要する点

### 【優れた点】

- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。
- ・実習開始以前に、本園や幼児とのかかわりをもつ機会を増やしたことによって、教育実習によい影響を及ぼしたり幼児理解が深まりやすくなったりした。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

### 【改善を要する点】

- ・大学のコピー機では費用負担が必要となるため、教育実習生が作成した保育指導案を本園でプリントアウトやコピーをし、その作業で朝の保育の準備に遅れてしまうこともあった。それぞれの教育実習生によりその状況は異なるが、教育実習に必要な資料等については、大学でも資料作成、準備等ができるような環境を整備が望まれる。
- ・教育実習中の本園教員の勤務時間は、変形労働時間制で1日10時間勤務となっているが、それ以上の長時間勤務となっているのが現状である。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目13 センターの役割

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点13 幼児教育関係者への研修支援及び教員の派遣はできているか

#### 【観点到る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、研修会会場提供としては、次のとおりである。

- ・全幼研徳島支部の事務局を本園におき支部の研修を企画運営（学習会、総会、理事会）
- ・教育講演会の開催
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（阿波市幼教研・板野郡幼研・共同園内研など）
- ・合同研究会の開催
- ・平成22年度幼児教育研究会の開催（422名の参加）
- ・幼児教育関係研修会への講師派遣
- ・県新規採用研修・新任園長研修会の会場の提供・講師派遣
- ・平成22年度幼稚園中堅教員研修への講師派遣

#### 【分析結果と根拠理由】

以上のとおり、幼児教育関係者への研修支援および教員の派遣はできている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

県内外より講演依頼があり、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。また、県外からの研修教員を本園に受け入れるなど、研修の場を開いており、今年度も滋賀県大津市・守山市から2名の現職教員の研修（11/15～11/20）・北海道教育大学函館幼稚園等の教育視察を受け入れた。

### 【改善を要する点】

講師として派遣している園長や教頭が勤務時間中に研修会などに出席しているため、その分の仕事を消化するには超過勤務とならざるを得ない状況である。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成22年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	1-④	附属幼稚園生活プラン（2008.11.20発行）
2	2-①	ほけんだより 11月号（2010.11.2発行）
3	3-①	平成22年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
6	6-①	研究紀要第44集「保育の質的充実を目指して－遊誘財データベースの構築－」（2010.11.20発行）
	6-②	遊誘財リーフレットNo.1（2010.11.20発行）
	6-③	平成22年度出張一覧
9	1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成22年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書
10	1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書
11	1-①	平成22年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成22年度幼児教育研究会アンケート集計結果
12	1-③	平成22年度幼稚園評価アンケート結果報告書

